

福知山市 令和3年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	めざせ！「救命の絆」世界一のまち事業												
事業担当	所属	55070000 消防署警防課					所属長	澤田晴彦					
会計情報	事業コード	550277	款	09 消防費	項	01 消防費	目	01 常備消防費	会計	01 一般会計	決算付属資料	204	頁
施策体系	施策コード	040201	施策名	消防・救急・救助の体制を充実させる									
計画期間	開始年度	平成25年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	福知山市応急手当の普及啓発活動推進に関する実施要綱、福知山市まちかど安心ステーション標章交付制度に関する実施要綱												
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> 国府補助事業 <input type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> 内部庶務的的事业 <input type="checkbox"/> その他 ()												
R3現在の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業へ統合 <input type="checkbox"/> 他事業を統合												
関連事業	救急活動事業												

II 事業基礎情報

事業目的 (あるべき姿)	市民によるバイスタンダーCPR及び応急手当の積極的な実施を目指すため、救命講習による応急手当と救命処置に関する正しい知識と技術を習得させる。 *バイスタンダーCPR(倒れた人のそばに居合わせた人が行う心肺蘇生)												
対象者	市民	対象者数	78,935	単位あたりコスト	0.2								
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()												
委託先・実施主体等													
事業概要 (箇条書き)	・普通救命講習(市民救命士養成講座)を実施した。受講者542人(再講習者を含む)。(年度末) ・応急手当普及員再講習を実施した。(9、10月)。 ・福知山市救急まちかど安心ステーションの登録・開設：登録した事業所、住宅等を標章により明示。(AEDステーション157か所)												
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R2)	主な業務内容										
	需用費	19	消耗品購入										
	役務費	19	応急手当普及員ボランティア保険(63人)										

III 予算執行状況

区分	R1(評価前年度)	R2(評価年度)	R3(本年度)	R4(要求年度)		
予算情報	① 当初予算	911	842	793	0	
	② 補正予算	0	0	0	0	
	③ 繰越予算	0	0	0	0	
	前年度繰越	0	0	0	0	
	次年度繰越	0	0	0	0	
	小計(①～③)	911	842	793	0	
予算財源内訳	① 一般財源	0	842	793	0	
	② 国支出金	0	0	0	0	
	③ 府支出金	0	0	0	0	
	④ 地方債	0	0	0	0	
	⑤ その他特財	911	0	0	0	
決算情報	① 流充用額	0	0	0	0	
	② 配当予算	911	842	0	0	
	③ 執行額	596	38	0	0	
	④ 執行率	65.4%	4.5%			
人機工算	① 従事職員数 (正職員・嘱託職員)	4.63 / 0.00	1.84 / 0.00	1.84 / 0.00	0.00 / 0.00	
	② 概算人件費	37,040	14,720	14,720	0	
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	37,636	14,758	14,720	0		
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称		種類	実績金額	決算付属資料	頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
「市民救命士」の受講登録者数	指標	人	1,249/3,000	1118 / 3000	343 / 1500	/ 1500	35,000人
	「応急手当普及員」の受講登録者数	人	68/40	68 / 40	63 / 40	/ 40	40人以上継続
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	市民救命士養成講座の回数	回	111/150	97 / 150	41 / 100	/ 100	年100回以上
	単位あたりコスト		8.1	6.1	0.9		
	応急手当普及員講習の実施回数	回	1/2	0 / 2	0 / 1	/ 1	年1回以上
単位あたりコスト		901.0	0.0	0.0			

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価	評価の理由
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	△	市民からの講習開催ニーズはあるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、期間や救急講習に制限を設け、感染防止対策を講じ少人数での開催としている。市民応急手当普及員との協働事業であり、本来であれば、市民応急手当普及員に積極的な参加を依頼するが、前記に配慮して依頼を控えている。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	○	市民救命士の育成に関しては、講習に必要最小限の職員で対応しており、また、講習内容の質の保証もできている。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	△	講習会等による市民の新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策が最優先であり、年間目標の1500人を大幅に下回ることとなった。新型コロナウイルス感染症に配慮し、市民応急手当普及員との協働により講習会の開催を継続する。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	令和2年度は、41回実施(月平均3.4回)542人の受講(平均13人/回)であった。新規受講者と合わせて、再講習受講者対象の救急講習を積極的に実施する。また、教育委員会との連携により小中学生に対する応急手当教育を実施するとともに、周辺部の救急講習受講率をあげ知識と技能の維持・向上を図る。		
これまでの課題及び今後の方向性	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度の受講者数も減少が予測されるが、広報等により、応急手当の重要性等を市民に周知し、ニーズに応じた講習を開催する。また、新規受講者から、再講習受講者の受講に重点を置き、継続的に実技を習得することで適切な応急手当が実施できるよう受講者の質の向上を図る。遠隔地において発生した救急事案に対して救急車が到着するまでに、適切な応急手当が実施できるよう地域(自治会等)での救急講習を推進するとともに、ファーストレスポンス体制の自治会を選定し、令和3年度中に実施する。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	
----------	--

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	<input type="checkbox"/> 事業の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 統合/組換 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	今年度も新型コロナウイルス感染症に伴い、人数制限等を設けての救急講習の開催となった。しかし、令和2年度より実施回数、受講者数は増加している。来年度からは、単体事業ではなく、救急活動事業の一環として応急手当の普及啓発を継続していく。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算縮減 <input type="checkbox"/> 他事業を統合 (統合事業名: ー) <input checked="" type="checkbox"/> 他事業へ統合 (統合先事業名: 救急活動事業)
--------	--

福知山市 令和3年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	救急活動事業												
事業担当	所属	55070000 消防署警防課					所属長	澤田晴彦					
会計情報	事業コード	410204	款	09 消防費	項	01 消防費	目	01 常備消防費	会計	01 一般会計	決算付属資料	200	頁
施策体系	施策コード	040201	施策名	消防・救急・救助の体制を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和23年	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	消防組織法第1条、消防法第1条、消防法第2条第1項第9号、救急救命士法第1条、福知山市救急業務規程第1条												
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> 内部庶務的事業 <input type="checkbox"/> その他 ()												
R3現在の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業へ統合 <input type="checkbox"/> 他事業を統合												
関連事業	めざせ！「救命の絆」世界一のまち事業												

II 事業基礎情報

事業目的 (あるべき姿)	消防組織法第1条に基づき、傷病者の搬送を適切に行うことを目的とし、必要な資器材の整備を行うとともに、救急救命士の資質向上、メディカルコントロール体制の更なる充実・高度化を図り、救急現場活動の質を向上させる。また、大規模災害や多数傷病者発生事故における地域医療機関との適切な役割分担と連携を強化する。												
対象者	市民	対象者数	78,935	単位あたりコスト	1.1								
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()												
委託先・実施主体等	日本船舶薬品株式会社大阪営業所、日本光電工業株式会社関西支社、株式会社京都環境保全公社、株式会社かんと一す												
事業概要 (箇条書き)	・救急現場活動で使用する各種医療機器の保守点検整備を実施した。 ・中丹メディカルコントロール協議会及び検証委員会を実施した。(10月・12月・3月) ・救急隊員の病院実習を実施し、医療従事者との連携を充実させ、救急救命士の知識・技術の向上を図った。												
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R2)	主な業務内容										
	需用費	5,519	救急活動消耗品、医薬材料費										
	委託料	1,377	救急車積載機器定期点検、医療廃棄物処理										
	備品購入費	2,778	アイソレーター、オゾン発生装置等										
	負担金補助及び交付金	2,421	救急救命士指示体制負担金、救急安心センター負担金										
	報償費・旅費・役員費・使用料及び賃借料	332	救急救命士病院研修報償費、管外搬送旅費、ポンペ圧力検査等										

III 予算執行状況

区分	R1(評価前年度)	R2(評価年度)	R3(本年度)	R4(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	7,433	7,335	12,661	13,770			
	② 補正予算	0	6,842	0	0			
	③ 繰越予算	0	0	0	0			
	前年度繰越	0	0	0	0			
	次年度繰越	0	0	0	0			
小計(①～③)	7,433	14,177	12,661	13,770				
予算財源内訳	① 一般財源	3,350	5,822	7,432	8,578			
	② 国支出金	0	5,230	0	0			
	③ 府支出金	0	0	2,250	0			
	④ 地方債	0	0	0	0			
	⑤ その他特財	4,083	3,125	2,979	5,192			
決算情報	① 流充用額	△ 2	△ 107	0	0			
	② 配当予算	7,431	14,070	0	0			
	③ 執行額	6,670	12,426	0	0			
	④ 執行率	89.8%	88.3%					
人概工算	① 従事職員数 (正職員・嘱託職員)	5.96 / 0.00	9.29 / 0.00	9.29 / 0.00	0.00 / 0.00			
	② 概算人件費	47,680	74,320	74,320	0			
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	54,350	86,746	74,320	0				
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称	救急活動事業(地方創生臨時交付金)	種類	消防費国庫補助金	実績金額	693	22	頁
		救急活動事業(緊急消防援助隊設備整備費補助事業)		消防費国庫補助金		4,207	22	頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
成果実績 (アウトカム) 実績/目標	救命率	%	2.1/5.0	5.1 / 5	2.5 / 5	/ 5	5
			/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	救急出動	件	3674	3632 / 3600	3137 / 3600	/ 3600	3600
	単位あたりコスト		2.2	1.8	4.0		
	救急搬送人員	人	3373	3314 / 3300	2858 / 3300	/ 3300	3300
	単位あたりコスト		2.4	2.0	4.3		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価	評価の理由
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	○	市民の生命に直接関係する事業で、法律により実施が義務付けられている。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	△	救急出動に必要な装備品を整備維持するとともに、救急救命士の資質向上、メディカルコントロール体制の更なる充実・高度化を図ることが市民の救命率の向上に有効である。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、感染防止対策用資器材の購入に費用が必要となっている。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	○	更なる救命率・社会復帰率の向上を図るため、一刻も早い119番通報、現場に居合わせた人による心肺蘇生を含む適切な応急手当やAEDを使用した除細動、救急隊員による救命処置など、救命の連鎖を築いていくことが必要不可欠である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	最終的な目標は、救命率の向上である。現在も救急隊員(救急救命士を含む)の資質の向上及びメディカルコントロール体制の充実・強化による現場活動能力の向上に取り組んでいるが、高齢化率の上昇から心肺停止事案の増加が予測されるが、一人でも多くの命を救えるように指導救命士を中心に救急隊員の知識・技術の向上に努める。		
これまでの課題及び今後の方向性	救命率は、各年により変動し救急出動件数については、令和2年は、前年に比較して減少したが、今後も横ばいで推移することが国の予測からも明らかとなっている。特に高齢化率の高い本市においては、その傾向も強いものとなることが予測される。このような中で、救急活動においては資機材の頻回使用に伴う不具合等も増加しており、修理等に多額の費用が必要となっている。救急救命士の処置拡大で侵襲的な処置も増加していることから、これらに対応するための予算も必要である。救命率の向上については、一人でも多くの命を救えるように指導救命士を中心に救急隊員の知識・技術の向上に努める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	
----------	--

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	<input type="checkbox"/> 事業の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 統合/組換 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大後は、救急活動に使用する消耗品の価格高騰及び品薄状態が継続している。その中でも年間の救急需要に対応できる資器材の維持・管理を実施し、万全の救急体制を整える。 救急ワークステーションでの救急救命士、救急隊員の研修を継続し現場活動能力の向上を図る。また、応急手当の普及啓発活動を行い、バイスタンダーCPR実施率の向上を図り、救命率の向上に努める。 めざせ！「救命の絆」世界一のまち事業を統合し、応急手当の普及啓発については継続的に実施する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業を統合 (統合事業名: めざせ！「救命の絆」世界一のまち事業) <input type="checkbox"/> 他事業へ統合 (統合先事業名: —)
--------	--